

愛知県 御中

愛知県 令和 7 年度 DX計画策定実証支援事業 実施報告書

令和 8 年 3 月 13 日

日本アイ・ビー・エム株式会社
コンサルティング事業本部

目次

- 1. 本業務の目的・基本方針等 … 2 ページ
 - (1) 本事業の目的・コンセプト
 - (2) 事業の特徴・ゴール

- 2. 実施結果 … 5 ページ
 - (1) 実施体制の構築、DX定義の決定
 - (2) 事業計画書作成支援・検証
 - (ア) 支援方法等の協議、参加企業の募集
 - (イ) 事業計画書作成・検証
 - (3) 成果報告会の開催

- 3. 総括 … 46 ページ
 - (1) 今年度の成果
 - (ア) 事業計画書作成の検証
 - (イ) 個別支援・WGプログラムの検証
 - (ウ) 実施結果の総括
 - (エ) 事業説明会・WGのアンケートの結果

1.本業務の目的・基本方針等

(1) 本事業の目的・コンセプト

(2) 事業の特徴・ゴール

1－（１）本事業の目的・コンセプト

本事業は、仕様書に記載されている目的を実現するために、【企業が持つ競争力を高め、更なる成長を促す】ことをコンセプトに設定した。

目的

企業が持つ競争力を高め更なる成長を促すには、デジタル技術を活用し、組織の変革や新たなビジネスモデルの創出を実現するDXの促進が極めて重要となっているため、ビジネスモデルの創出や業務プロセスの再構築による変革を目指した支援を実施する。

<コンセプト>

「企業が持つ競争力を高め、更なる成長を促す」

- **企業の経営向上を実現するために、必要なスキルを持った複数の専門家が多角的な支援を実施する**

1－（２）事業の特徴・ゴール

目的を達成するため、事業の特徴としては、【プロフェッショナルによる伴走支援】、【月１回の個別支援、ワーキンググループの実施】、【一気通貫の支援】。最終的には、参加企業の事業計画書を作成とした。

特徴

- 先端技術、新規事業開発、事業性評価など様々なプロフェッショナルによる伴走支援
- 月１回程度の個別支援とワーキンググループを組み合わせた全６回の事業計画作成プログラムを実施する ⇒併せて希望者には追加の個別支援を実施
- 初期の検討段階から最終発表まで一気通貫に支援

<ゴール>

経営向上につながる「DXに関する事業計画書」の作成

2.実施結果

(1) 実施体制の構築、DX定義の決定

(2) 事業計画書作成支援・検証

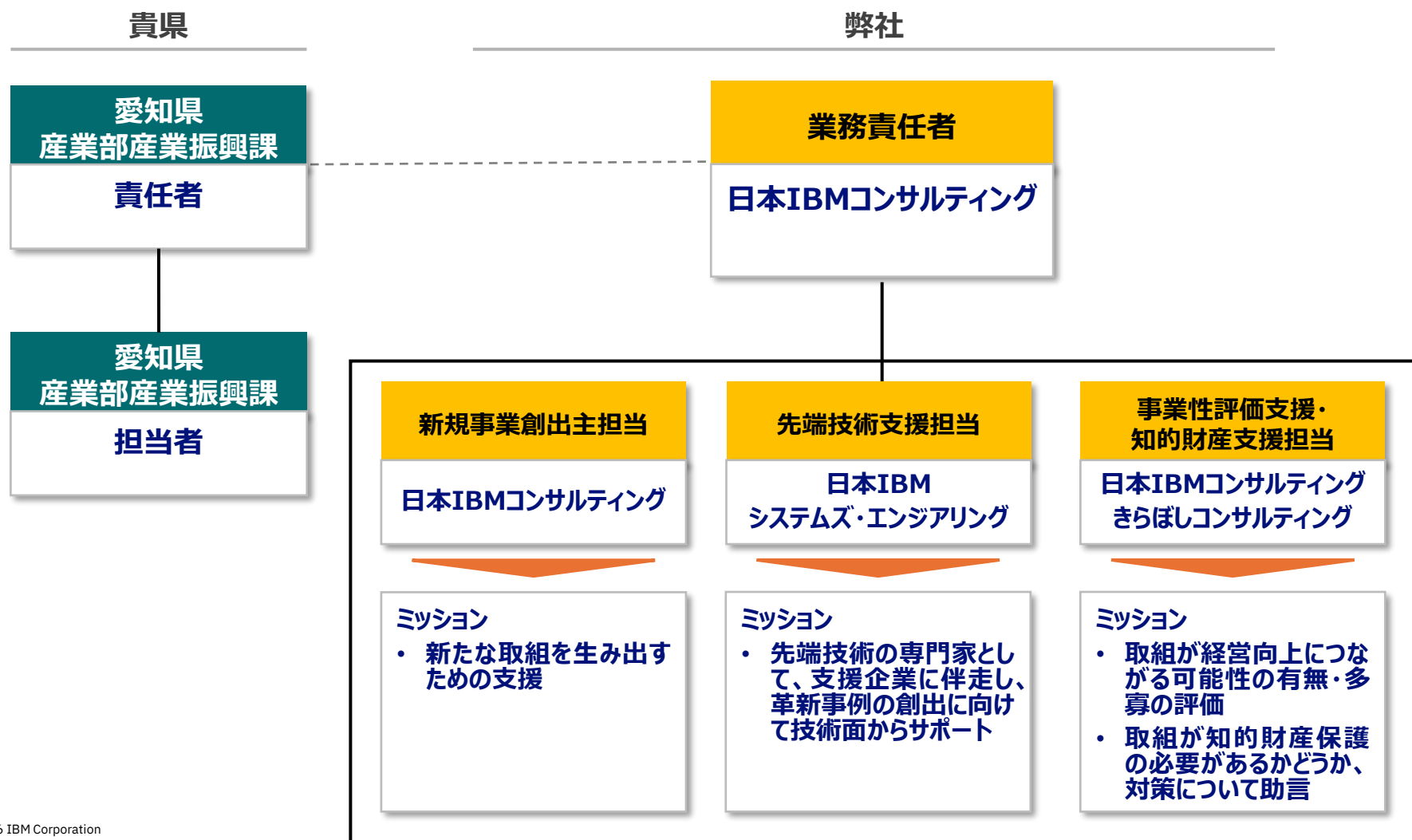
(ア) 支援方法等の協議、参加企業の募集

(イ) 事業計画書作成・検証

(3) 成果報告会の開催

2－（１）実施体制の構築、DX定義の決定

本事業では、4つの観点「新規事業創出」、「先端技術」、「事業性評価」、「知的財産」から支援を実施。それぞれ経験豊富な専門家を配置した。



2－（１）実施体制の構築、DX定義の決定

参画する主な専門家は次の通り。また、必要に応じて、各社より専門家のアサインを行った。

役割	所属	専門家種別	役職・氏名	専門家概要
業務責任者	IBM	新規事業創出・技術支援	シニアマネージング コンサルタント 小川 泰宏	IBM コンサルティング部門内のデータ利活用と分析チームのリーダー。データ利活用やAIを活用した企業のDX支援について、多数、また幅広い実績・ノウハウを持つ。DX構想策定～システム構築・運用までの全フェーズについてDX支援が可能。
副責任者	IBM	新規事業創出	シニアマネージング コンサルタント 佐藤 潤	自治体・省庁（中小企業庁）・シンクタンクなどでの就業経験を持ち、数百社の企業の経営支援経験がある。また、デジタルを活用した経営支援経験も豊富に持つ。企業に対する補助金などの公的支援を用いた支援実績も豊富に持つ。
新規事業創出担当者	IBM	新規事業創出	シニアコンサルタント 小山 弘二	大手IT企業とまちづくり企業の異なる経験・ノウハウを持つDXの専門家。中小企業のDX支援、ワークショップ運営による新規事業創出支援等の経験を豊富に持ち、経営支援経験も豊富に持つ。
先端技術支援 担当責任者	IBM	先端技術支援担当	アドバイザリ ITスペシャリスト 西岡 亜矢子	金融・製造業を中心としたDX関連のプロジェクトを多数経験。レガシーモダナイゼーションからRPA、AIエージェントの導入まで、多岐にわたる技術経験を持つ。
先端技術支援担当	IBM	先端技術支援担当	ITスペシャリスト 加藤 浩介	AI/IoT/データを活用したソリューションを要件定義から設計/開発/運用/保守までを一貫して経験。DX関連のプロジェクトを複数リーダー・アドバイザーとして経験。
事業性評価支援・ 知的財産支援担当	IBM	事業性評価・ 知的財産	シニアマネージング コンサルタント 西山 彰人	弁理士と応用情報技術者の資格を持つ知財とデジタル双方に精通した専門家。新規事業開発やオープンイノベーションの経験も豊富にあり、事業開発にも精通。地域金融機関との連携経験も豊富にあり、知財面、事業面、デジタル面、すべての面から支援が可能。
事業性評価支援・ 知的財産支援担当	きらぼし コンサルティング	事業性評価・知的財産	エグゼクティブアドバイザー 強瀬 理一	きらぼし銀行常務執行役員、きらぼしコンサルティング代表取締役社長を歴任。事業性評価に関して、組織を先導し多くの実績を持つ。また、内閣府知的財産戦略本部 価値デザイン経営ワーキンググループ 委員、特許庁委員等を歴任しており、知的財産の活用についても、高い専門知識・ノウハウを持つ。

2－（１）実施体制の構築、DX定義の決定

経済産業省及び総務省が作成したDX定義を参考に、本事業を実施する上でのDX定義を「**①デジタルによる新製品・サービスの開発**」、「**②業務プロセスの再構築**」の2点に決定した。

デジタイゼーション

アナログな手段で作成し、物理的に保管しているデータのデジタル化を進める段階

★本事業の範囲

②業務プロセスの再構築

デジタイゼーション

個別の業務フローや製造プロセスにデジタルを取り入れたり、プロセスを見直す段階

①デジタルによる新製品・サービスの開発

デジタルトランスフォーメーション

データとデジタル技術を活用して、新しい製品やサービス、ビジネスモデルを変革する段階

2－（２）－（ア）支援手法等の協議、参加企業の募集

「①デジタルによる新製品・サービスの開発」、「②業務プロセスの再構築」の2点のイメージ事例は以下の通り。2024年度まで実施されてきたDXチャレンジ促進事業にて、事業計画書の作成を経て、取組として実施してきた事例。

①デジタルによる新製品・サービスの開発

<愛知県事業 過去事例①>

企業名	株式会社コーイー・テック
主要業務	特殊ボルトの製造販売
取組事例	・AI、ロボットを活用した中小企業向け検査装置の開発・販売 ・様々な製品の検査をA.容易な設定で、B.誰でも調整ができ、C.目視検査業務を半自動でできる

②業務プロセスの再構築

<愛知県事業 過去事例②>

企業名	旭金属株式会社
主要業務	レーザー加工機を使用して金属の切断加工、曲げ溶接などの钣金加工
取組事例	・「A.過去の注文履歴」と「B.紙で管理している図面・受注情報」をデータで作成・管理 ・AとBをデータ連携し、利益率、優良顧客の可視化。

次ページに支援プログラムイメージを掲載

2－（２）－（ア）支援手法等の協議、参加企業の募集

参加企業の募集対象については、以下の内容とした。

対象者

<対象企業>

- ・ 愛知県内に本社又は営業所を持つ中小企業等
- ・ あいち産業DX推進コンソーシアム会員※

<参加者想定>

- ・ 決裁権限がある方（管理職以上を想定）
- ・ 現場のことを理解している方
の両方の参加が望ましい。

※現時点で、非会員の事業者様については、本事業応募時に、あいち産業DX推進コンソーシアムの会員申請していただければ、問題ありません。

選定基準 （案）

- ・ 単なるデジタル化ではなく、DXとなる取り組みを目指しているか
- ・ DXに取り組む経営資源（資金、体制など）はあるか
- ・ 経営向上に取り組む意欲があるか（特に経営層）
- ・ 他の企業のモデルとなりうる取組であるか

採択 予定者数

8 者予定

公募時に使用したチラシは以下の通り。

愛知県DX計画策定支援実証支援 事業説明会

本事業の事業説明会を次の通り開催します。

同時開催で先端技術紹介や、技術のデモも披露いたします。

本事業への参画を検討している方、先端技術に興味がある方はぜひご参加ください

説明会概要

日時 2025年7月24日(木) 14時00分～15時00分

場所 名駅Imaiビル6階 Room O/オンライン

名古屋市中村区名駅4丁目10-25

講師 日本アイ・ビー・エム株式会社

次第

- ・DXを進める意義について
- ・先端技術紹介（ユースケース、デモなど）
- ・DX計画策定実証支援事業について
- ・事業に関する個別相談会

申込方法

申込方法 愛知県公式HPを確認し、以下のアドレス宛に必要な事項を記入の上、メールにてお申込みください。
<https://www.pref.aichi.jp/site/aichi-pref-iot/2025dx-plan-recruitment.html>

宛先 Aichi-dxplan2025@ibm.com

件名 会社名：〇〇 愛知県DX計画策定実証支援事業 説明会申込

必要事項 社名、部署名、担当者氏名、担当者連絡先（電話、メール）、会場（現地・オンライン）、個別相談会参加希望（有・無）、興味のあるWG（任意）

申込期限 2025年7月22日(火) 17:00まで

—愛知県HP—

お問い合わせ先

日本アイ・ビー・エム株式会社（県事業委託先） 担当：佐藤、小山

✉ aichi-dxplan2025@ibm.com

2－（2）－（ア）支援手法等の協議、参加企業の募集

公募時に使用した愛知県のHPは以下の通り（一部抜粋）。

IoT Acceleration Aichi pref Lab

【募集期間延長】2025年度DX計画策定実証支援事業の参加者を募集します

ページID:0593898 掲載日:2025年8月7日更新 印刷ページ表示

2024年に愛知県が実施したデジタル技術活用促進調査において、県内企業の大半がデジタル技術の活用には取り組んでいるものの、高度なDX※に取り組んでいる企業は3%であり、企業が持つ競争力を高め更なる成長を促すには、DXの推進が重要となっています。

本事業では、県内企業が高度なDXを目指し、ビジネスモデルの創出や業務プロセスの再構築による変革に挑戦するための計画策定の支援を実施します。

ついては、事業の参加者を募集しますので、自社のDXに関心のある企業の方は、この機会に是非御参加ください。

※高度なDX
企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

引用元:経済産業省「中堅・中小企業等向けデジタルガバナンス・コード」実践の手引き2.1(旧:DX推進ガイドライン)」

[DX計画策定実証支援事業チラシ\[PDFファイル/537KB\]](#)
[DX計画策定実証支援事業説明資料\[PDFファイル/4.23MB\]](#)
[2025年度DX計画策定実証支援事業申請書\[Wordファイル/26KB\]](#)

1 事業内容

企業の経営向上を実現するために、日本アイ・ビー・エム株式会社(県事業委託先)を主とした複数の専門家※から支援を受け、「3 活動テーマ」に記載のテーマについて、月1回程度の個別支援、ワーキンググループによる全6回の事業計画作成プログラムを実施します。

※複数の専門家
デジタル技術、知的財産、事業性評価の各専門家

2 事業期間

2025年8月末から2026年1月下旬まで(予定)

3 活動テーマ

テーマ(1)デジタルによる新製品・サービスの開発
テーマ(2)業務プロセスの再構築

4 対象者

- 「3 活動テーマ」に記載のテーマに関するワーキンググループ活動への参画を希望する企業
- 愛知県内に本社又は営業所を持つ中小企業等
- あいち産業DX推進コンソーシアム会員

※決裁権限がある方(管理職以上を想定)及び現場のことを理解している方の両方の参加ができる企業が望ましい。

対象者イメージ

テーマ(1)デジタルによる新製品・サービスの開発

- 新規事業を創出したいが、アイデアが出ない。
- 自社の事業にデジタル技術を組み合わせ、新たな可能性を広げたい。

テーマ(2)業務プロセスの再構築

- 生産工程を改善して、生産性を上げたい。
- 生産工程の見直しを図りたいが、どのようにデジタル技術を活用するのか分からない。

5 参加費用

無料

6 募集企業数

各テーマ:4社程度

※申込多数の場合は申込内容を基に対象企業を選定します。
2025年8月中旬頃に、申込された全企業へメールにて選定結果を通知いたします。

2－（２）－（ア）支援手法等の協議、参加企業の募集

参加企業の募集については、以下の流れで実施した。

日付	実施事項	備考
2025年7月17日	愛知県HPにて公募開始	
2025年7月23日	事業説明会実施 現地：瀬戸蔵4階 会議室1 （瀬戸市蔵所町1-1）	市や地元商工会議所、金融機関向けに 事業について説明
2025年7月24日	事業説明会実施 現地：名駅Imaiビル6階 Room O （名古屋市中村区名駅4丁目10-25） オンライン：Microsoft Teams	【次第】 ● DXを進める意義について ● 先端技術紹介(ユースケース、デモ) ● DX計画策定実証支援事業について ● 事業に関する個別相談会
2025年8月6日	第一次公募〆切	
2025年8月13日	審査委員会実施 現地：日本アイ・ビー・エム株式会社名古屋営業 所（名古屋市中村区名駅一丁目1番1号 JP タワー名古屋）	審査委員 愛知県：嶋田和弘 日本アイ・ビー・エム株式会社：佐藤潤 日本アイ・ビー・エム株式会社：小川泰宏
2025年8月29日	第二次公募〆切	
※公募期間中随時	愛知県、弊社により行政や支援機関に周知を実施	

2－（2）－（ア）支援手法等の協議、参加企業の募集

説明会の申し込み状況は以下の通り。うち3名が個別相談に参加。

参加方法	人数	個別相談
オンライン	7名	1名
現地	3名	2名
合計	10名	3名

2－（２）－（ア）支援手法等の協議、参加企業の募集

説明会の申し込みリストは以下の通り。

受付日	社名	興味のあるテーマ	個別相談会希望	参加形態
2025/7/2	鈴秀工業株式会社	AI	なし	オンライン
2025/7/3	八洲建設株式会社	なし	なし	現地
2025/7/11	株式会社 コーエー・テック	業務プロセスの再構築 社内加工データのデジタル化による生産性の向上	あり	現地
2025/7/18	船橋株式会社	業務プロセスの再構築（生産フローの見直しを図りたい）	あり (15時半まで30分程お願いしたい)	現地
2025/7/23	オアシス行政書士事務所	記載なし	なし	オンライン
2025/7/24	藤塗装工業株式会社	記載なし	あり	オンライン

2－（2）－（ア）支援手法等の協議、参加企業の募集

説明会の写真などは以下の通り。説明会で使用した資料は別添のとおり。



そもそもDXとは？

本事業を実施する上で、経済産業省及び総務省が作成したDX定義を参考に、「①デジタルによる新製品・サービスの開発」、「②業務プロセスの再構築」の2点でDXを再定義している。

デジタイゼーション
アナログな手段で作成し、物理的に保管しているデータのデジタル化を進める段階

★本事業の範囲

②業務プロセスの再構築

デジタライゼーション
個別の業務フローや製造プロセスにデジタルを取り入れたり、プロセスを見直す段階

①デジタルによる新製品・サービスの開発

デジタルトランスフォーメーション
データとデジタル技術を活用して、新しい製品やサービス、ビジネスモデルを変革する段階

経済産業省 デジタルガバナンスコード2.0を基に作成

© 2025 IBM Corporation

2－（２）－（ア）支援手法等の協議、参加企業の募集

説明会後、日本アイ・ビー・エム株式会社より個別の集客も実施し、参加企業を募集。第１次・第２次と募集を募った後、審査委員会を通じ、WG１：４社、WG２：５社の参加企業を決定。合計９社にて本事業のWGを開始した。

	WG1	WG2
1	アイサンテクノロジー株式会社	株式会社コーエー・テック
2	三和興産株式会社	八洲建設株式会社
3	高砂電気工業株式会社	藤塗装工業株式会社
4	株式会社丸上製作所	三信建材工業株式会社
5		平野鉄工株式会社

2－（2）－（イ）事業計画作成・検証

前述のDX定義「①デジタルによる新製品の・サービスの開発」、「②業務プロセスの再構築」を軸に、複数の専門家によって個別支援×ワーキンググループを交互に組み合わせて支援を実施。

⇒経営向上につながる「DX計画」の策定を支援。

WG 1

①デジタルによる新製品・サービスの開発

- (例)・何か新規事業を作りたいけど、アイデアが出ない・・・
・自社の新たな事業の柱をたてたい・・・

WG 2

②業務プロセスの再構築

- (例)・業務プロセスに何か無駄がある気がする・・・
・既存業務を効率化したいが、どのように進めればよいかわからない

個別支援（月1回程度）



ワーキンググループによる支援（月1回程度）

【専門家一例】

新規事業創出



先端技術



事業性評価



知的財産



日本アイ・ビー・エム株式会社の専門家が中心となって支援

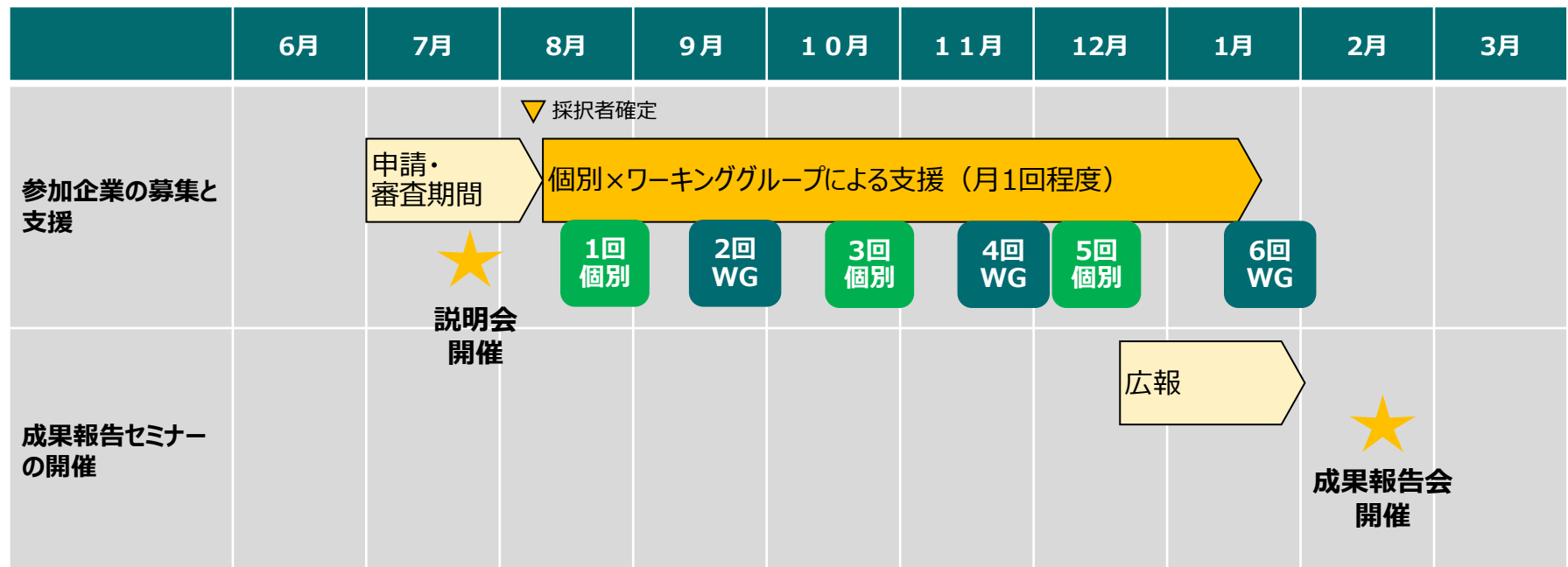
2－（２）－（イ）事業計画作成・検証

個別×ワーキンググループを交互に組み合わせ、WG1,WG2それぞれを、以下のような第1回～第6回のプログラム構成で支援を実施。

	第 1 回個別	第 2 回WG	第 3 回個別	第 4 回WG	第 5 回個別	第 6 回WG
	今後の方向性検討	方向性の具体化	事業計画の仮確定	事業計画のブラッシュアップ	事業計画の最終調整	事業計画の発表
メイン支援	- 各企業の目指す姿、経営資源、事業計画の方向性などをヒアリング - 強み、ポテンシャル、課題、弱みなどを整理する	「ビジネスモデルの創出」「業務プロセスの再構築」のWGに企業を振分 - 初回個別支援の内容を共有、事業計画へ肉付け	- 第1～2回の内容を踏まえて事業計画を仮確定する 5W1H形式で、事業計画の内容を明確にしつつ、リスク分析、助言をこなう	- 事業計画の発表を行い、専門家より助言する - 特に、事業性評価、知的財産に関する支援を重点的に行う	- 第4回の専門家からの助言、課題に対する解決策を検討する - 第6回の説明に向けた準備	- 作成した事業計画を発表 - 参加者、専門家より助言に加え、自社のノウハウ、ネットワークを踏まえた解決策があれば共有
サブ支援	支援先の進捗状況に応じて現地訪問・個別相談の実施					
	支援先の検討状況によってソリューション選定などの助言			支援先の検討状況によって補助金活用など公的支援の紹介		

2－（2）－（イ）事業計画作成・検証

7月中～下旬に説明会を実施。8月から1月まで月に一度程度、個別、ワーキンググループによる支援を実施する。また、年度末には、成果報告会を開催した。



2－（２）－（イ）事業計画作成・検証

WG 1 参加企業に対して以下の支援を実施。

【事業計画作成支援】

D Xの目的と目標の設定、現状の業務プロセスやシステムの分析、必要なリソース（人材、技術、資金）の特定、実行計画とスケジュールの策定。

【検証】

事業計画に基づく初期段階のテストと評価、リスクと課題の特定、必要な調整や改善点の洗い出し。

※各社の事業計画書は別添のとおり。

社名	取組名（題名）
アイサンテクノロジー 株式会社	デジタル技術で測量業界の効率化を加速する
株式会社 丸上製作所	フリーアドレス・ペーパーレスを実現し柔軟で効率的な働き方を目標にD X推進計画
高砂電気工業 株式会社	生成A I、エージェントを活用した業務改善
三和興産 株式会社	D Xによる多様性のある生涯労働の環境整備

2－（2）－（イ）事業計画作成・検証

WG 2 参加企業に対して以下の支援を実施。

【事業計画作成支援】

D Xの目的と目標の設定、現状の業務プロセスやシステムの分析、必要なリソース（人材、技術、資金）の特定、実行計画とスケジュールの策定。

【検証】

事業計画に基づく初期段階のテストと評価、リスクと課題の特定、必要な調整や改善点の洗い出し。

※各社の事業計画書は別添のとおり。

社名	取組名
株式会社 コーイー・テック	アナログで運用している加工現場のチェックシートをデジタル化し、情報共有と品質・生産性の向上を図る
三信建材工業 株式会社	デジタルを活用した業務プロセス再構築
藤塗装工業 株式会社	デジタル技術導入によりバックオフィスや現場業務の効率化・自動化を進める
八洲建設 株式会社	全社横断的なデータ基盤の構築に向けた基礎設計を行い、デジタルライゼーションへ移行する。
平野鉄工 株式会社	A Iと人間の「いいとこ取り」にて見積りシステムを構築

2－（２）－（イ）事業計画作成・検証

アイサンテクノロジー株式会社に対し以下の通り支援を実施。

支援内容	日時	開催形態	実施内容
第１回個別	2025年9月4日	対面	・今後の方向性検討 ・現状の案を技術、メリット、コスト等の面から精査し具体化。
(追加支援)	2025年9月19日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
(追加支援)	2025年9月30日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第２回WG	2025年10月3日	対面	・方向性の具体化 ・技術面、ビジネス面等の観点から、実現可能性の有無を検討。
(追加支援)	2025年10月17日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
(追加支援)	2025年10月21日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第３回個別	2025年10月30日	対面	・事業計画の仮確定 ・5W1H形式に計画内容を明確化。リスク分析や助言を実施。
(追加支援)	2025年11月21日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第４回WG	2025年12月１日	対面	・事業計画書のブラッシュアップ ・事業性評価、知的財産に関する支援を実施。
(追加支援)	2025年12月２日	現地訪問	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第５回個別	2025年12月18日	対面	・事業計画の最終調整 ・第4回の専門家からの助言、課題に対する解決策を検討。
第６回WG	2026年１月29日	対面	・事業計画の発表

2－（２）－（イ）事業計画作成・検証

株式会社丸上製作所に対し以下の通り支援を実施。

支援内容	日時	開催形態	実施内容
第１回個別	2025年9月4日	対面	・今後の方向性検討 ・現状の案を技術、メリット、コスト等の面から精査し具体化。
(追加支援)	2025年9月16日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
(追加支援)	2025年9月26日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第２回WG	2025年10月3日	対面	・方向性の具体化 ・技術面、ビジネス面等の観点から、実現可能性の有無を検討。
(追加支援)	2025年10月17日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第３回個別	2025年10月30日	対面	・事業計画の仮確定 ・5W1H形式に計画内容を明確化。リスク分析や助言を実施。
(追加支援)	2025年11月20日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第４回WG	2025年12月１日	対面	・事業計画書のブラッシュアップ ・事業性評価、知的財産に関する支援を実施。
第５回個別	2025年12月18日	対面	・事業計画の最終調整 ・第4回の専門家からの助言、課題に対する解決策を検討。
第６回WG	2026年１月29日	対面	・事業計画の発表

2－（２）－（イ）事業計画作成・検証

高砂電気工業株式会社に対し以下の通り支援を実施。

支援内容	日時	開催形態	実施内容
第１回個別	2025年9月4日	対面	・今後の方向性検討 ・現状の案を技術、メリット、コスト等の面から精査し具体化。
(追加支援)	2025年9月16日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
(追加支援)	2025年9月25日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第２回WG	2025年10月3日	対面	・方向性の具体化 ・技術面、ビジネス面等の観点から、実現可能性の有無を検討。
(追加支援)	2025年10月16日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第３回個別	2025年10月30日	対面	・事業計画の仮確定 ・5W1H形式に計画内容を明確化。リスク分析や助言を実施。
(追加支援)	2025年11月20日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第４回WG	2025年12月１日	対面	・事業計画書のブラッシュアップ ・事業性評価、知的財産に関する支援を実施。
第５回個別	2025年12月18日	対面	・事業計画の最終調整 ・第4回の専門家からの助言、課題に対する解決策を検討。
(追加支援)	2025年１月21日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第６回WG	2026年１月29日	対面	・事業計画の発表

2－（２）－（イ）事業計画作成・検証

三和興産株式会社に対し以下の通り支援を実施。

支援内容	日時	開催形態	実施内容
第１回個別	2025年9月4日	対面	・今後の方向性検討 ・現状の案を技術、メリット、コスト等の面から精査し具体化。
(追加支援)	2025年9月19日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第２回WG	2025年10月3日	対面	・方向性の具体化 ・技術面、ビジネス面等の観点から、実現可能性の有無を検討。
(追加支援)	2025年10月17日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第３回個別	2025年10月30日	対面	・事業計画の仮確定 ・5W1H形式に計画内容を明確化。リスク分析や助言を実施。
(追加支援)	2025年11月21日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第４回WG	2025年12月１日	対面	・事業計画書のブラッシュアップ ・事業性評価、知的財産に関する支援を実施。
第５回個別	2025年12月18日	対面	・事業計画の最終調整 ・第4回の専門家からの助言、課題に対する解決策を検討。
(追加支援)	2025年１月23日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第６回WG	2026年１月29日	対面	・事業計画の発表

2－（2）－（イ）事業計画作成・検証

株式会社コーエー・テックに対し以下の通り支援を実施。

支援内容	日時	開催形態	実施内容
第1回個別	2025年9月4日	対面	・今後の方向性検討 ・現状の案を技術、メリット、コスト等の面から精査し具体化。
(追加支援)	2025年9月17日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第2回WG	2025年10月3日	対面	・方向性の具体化 ・技術面、ビジネス面等の観点から、実現可能性の有無を検討。
(追加支援)	2025年10月17日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第3回個別	2025年10月30日	対面	・事業計画の仮確定 ・5W1H形式に計画内容を明確化。リスク分析や助言を実施。
(追加支援)	2025年11月27日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第4回WG	2025年12月1日	対面	・事業計画書のブラッシュアップ ・事業性評価、知的財産に関する支援を実施。
第5回個別	2025年12月18日	対面	・事業計画の最終調整 ・第4回の専門家からの助言、課題に対する解決策を検討。
(追加支援)	2025年1月7日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第6回WG	2026年1月29日	WEB	・事業計画の発表

2－（２）－（イ）事業計画作成・検証

三信建材工業株式会社に対し以下の通り支援を実施。

支援内容	日時	開催形態	実施内容
第１回個別	2025年9月4日	対面	・今後の方向性検討 ・現状の案を技術、メリット、コスト等の面から精査し具体化。
(追加支援)	2025年9月22日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第２回WG	2025年10月3日	対面	・方向性の具体化 ・技術面、ビジネス面等の観点から、実現可能性の有無を検討。
(追加支援)	2025年10月17日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第３回個別	2025年10月30日	対面	・事業計画の仮確定 ・5W1H形式に計画内容を明確化。リスク分析や助言を実施。
(追加支援)	2025年11月21日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第４回WG	2025年12月１日	対面	・事業計画書のブラッシュアップ ・事業性評価、知的財産に関する支援を実施。
第５回個別	2025年12月18日	対面	・事業計画の最終調整 ・第4回の専門家からの助言、課題に対する解決策を検討。
第６回WG	2026年１月29日	対面	・事業計画の発表

2－（２）－（イ）事業計画作成・検証

藤塗装工業株式会社に対し以下の通り支援を実施。

支援内容	日時	開催形態	実施内容
第１回個別	2025年9月4日	対面	・今後の方向性検討 ・現状の案を技術、メリット、コスト等の面から精査し具体化。
(追加支援)	2025年9月19日	現地訪問	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第２回WG	2025年10月3日	対面	・方向性の具体化 ・技術面、ビジネス面等の観点から、実現可能性の有無を検討。
(追加支援)	2025年10月16日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第３回個別	2025年10月30日	対面	・事業計画の仮確定 ・5W1H形式に計画内容を明確化。リスク分析や助言を実施。
(追加支援)	2025年11月20日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
(追加支援)	2025年11月25日	現地訪問	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第４回WG	2025年12月１日	対面	・事業計画書のブラッシュアップ ・事業性評価、知的財産に関する支援を実施。
第５回個別	2025年12月18日	対面	・事業計画の最終調整 ・第4回の専門家からの助言、課題に対する解決策を検討。
(追加支援)	2026年１月26日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第６回WG	2026年１月29日	対面	・事業計画の発表

2－（２）－（イ）事業計画作成・検証

八洲建設工業株式会社に対し以下の通り支援を実施。

支援内容	日時	開催形態	実施内容
第１回個別	2025年9月4日	対面	・今後の方向性検討 ・現状の案を技術、メリット、コスト等の面から精査し具体化。
(追加支援)	2025年9月19日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
(追加支援)	2025年9月29日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第２回WG	2025年10月3日	対面	・方向性の具体化 ・技術面、ビジネス面等の観点から、実現可能性の有無を検討。
(追加支援)	2025年10月17日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第３回個別	2025年10月30日	対面	・事業計画の仮確定 ・5W1H形式に計画内容を明確化。リスク分析や助言を実施。
第４回WG	2025年12月１日	対面	・事業計画書のブラッシュアップ ・事業性評価、知的財産に関する支援を実施。
第５回個別	2025年１月６日	WEB	・事業計画の最終調整 ・第４回の専門家からの助言、課題に対する解決策を検討。
第６回WG	2026年１月29日	対面	・事業計画の発表

2－（２）－（イ）事業計画作成・検証

平野鉄工株式会社に対し以下の通り支援を実施。

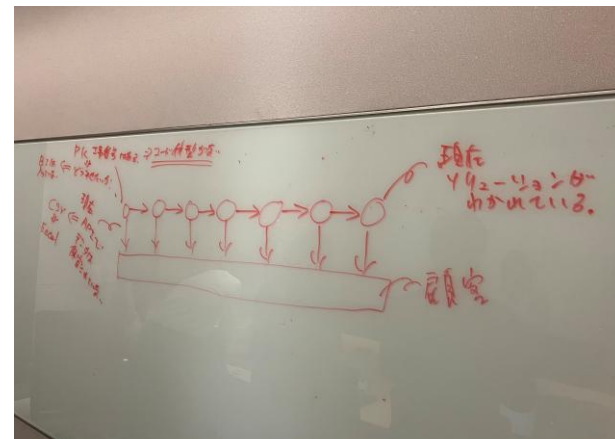
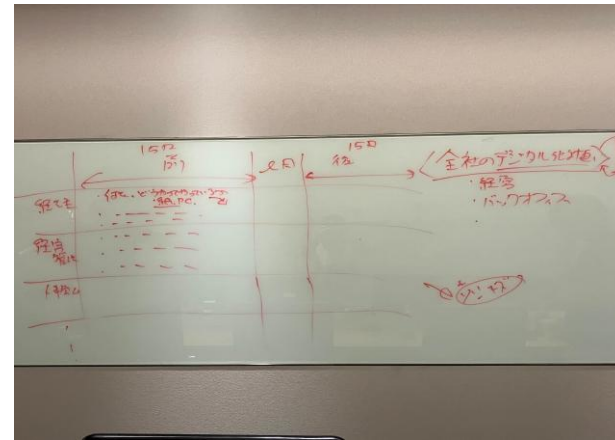
支援内容	日時	開催形態	実施内容
第１回個別	2025年9月4日	対面	・今後の方向性検討 ・現状の案を技術、メリット、コスト等の面から精査し具体化。
(追加支援)	2025年9月26日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第２回WG	2025年10月3日	対面	・方向性の具体化 ・技術面、ビジネス面等の観点から、実現可能性の有無を検討。
(追加支援)	2025年10月16日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第３回個別	2025年10月29日	対面	・事業計画の仮確定 ・5W1H形式に計画内容を明確化。リスク分析や助言を実施。
(追加支援)	2025年11月20日	WEB	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第４回WG	2025年12月１日	対面	・事業計画書のブラッシュアップ ・事業性評価、知的財産に関する支援を実施。
(追加支援)	2025年12月２日	現地訪問	・事業計画書作成にあたる懸念点、検討状況の確認。
第５回個別	2025年12月18日	対面	・事業計画の最終調整 ・第4回の専門家からの助言、課題に対する解決策を検討。
第６回WG	2026年１月29日	対面	・事業計画の発表

2 - (2) - (イ) 事業計画作成・検証

第1回個別支援の実施。※詳細や使用した資料は別添のとおり。

今後の方向性検討

- 各企業の目指す姿、経営資源、事業計画の方向性などをヒアリング。
- 強み、ポテンシャル、課題、弱みなどの整理を行った。



2－（２）－（イ）事業計画作成・検証

第２回WGの実施。※詳細や使用した資料は別添のとおり。

方向性の具体化

- 「ビジネスモデルの創出」、「業務プロセスの再構築」のWGに企業を振り分けた。
- 第１回個別支援の内容を共有、事業計画へ肉付けを行った。



2－（２）－（イ）事業計画作成・検証

第３回WGの実施。※詳細や使用した資料は別添のとおり。

事業計画の仮確定

- ・ 第１～２回の内容を踏まえて事業計画を仮確定した。
- ・ 5W1H形式で、事業計画の内容を明確にしつつ、リスク分析、助言を行った。



2－（2）－（イ）事業計画作成・検証

第4回WGの実施。※詳細や使用した資料は別添のとおり。

事業計画のブラッシュアップ

- 事業計画の発表を行い、専門家による助言を実施した。
- 特に、事業性評価、知的財産に関する支援を重点的に行った。



2－（２）－（イ）事業計画作成・検証

第５回WGの実施。※詳細や使用した資料は別添のとおり。

事業計画の最終調整

- ・ 第４回の専門家からの助言、課題に対する解決策の検討を行った。
- ・ 第６回の説明に向けた準備を実施した。

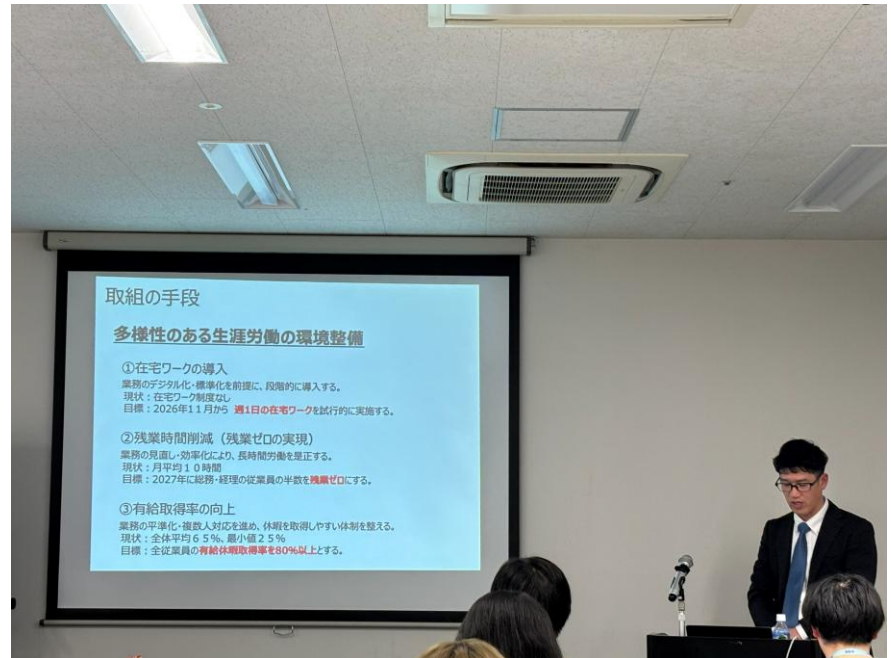


2－（2）－（イ）事業計画作成・検証

第6回WGの実施。※詳細や使用した資料は別添のとおり。

事業計画の発表

- ・ 作成した事業計画を発表した。
- ・ 参加者、専門家からの助言に加え、自社のノウハウ、ネットワークを踏まえた解決策を共有した。



2－（2）－（イ）事業計画作成・検証

第6回WG 当日、講師から各社へのコメントは以下のとおり。

	企業名	講師からのコメント
1	アイサンテクノロジー株式会社	・リスクが低く、成果が図りやすいサービスである。 ・ウェアラブルカメラを初期導入ステップとし、独自技術となるスマートグラスを段階的に対応させるビジネスモデルが効果的である。 ・新たな測量スタイルの確立に向けて特許取得の検討が重要である。
2	三和興産株式会社	・コンサルタントとの業務改善と基幹システム入れ替えの取り組みを連携させないと手戻りが発生する恐れがあるため気を付けるべきである。 ・人で付属が加速していく中で重要な取り組みである。 ・各部DX推進担当者は兼任となり業務負担が増えるため、通常業務の別の方への移管等を検討する必要がある。
3	高砂電気工業株式会社	・DX計画と売上向上計画を両方掲げている点が特徴的である。補助金や融資の活用を検討すべき。 ・デザインレビューAIでは、ベテラン従業員それぞれをAIEージェントとして作成する発想が良いのではないかと思う。 ・暗黙知を形式知かする際、非定型データをどれくらい貯めているかが重要。
4	株式会社丸上製作所	・工数削減で生まれた時間の活用法として、資格取得支援や部門横断の新規事業開発チームの設置が考えられる。 ・ペーパーレスは会議資料、稟議書、見積書から着手するのが効果的である。 ・机モノを置かない等、物理的なペーパーレス化の手法も検討できる。 ・ペーパーレス化は将来のAI活用やデータ分析の基盤となるため、具体的活用方法まで見据えた計画を検討してほしい。

2－（２）－（イ）事業計画作成・検証

第6回WG 当日、講師から各社へのコメントは以下のとおり。

	企業名	講師からのコメント
1	株式会社コーエー・テック	・ 特殊ボルトの価値が見える化し、加工条件の数値化による差別化点を打ち出すべき。知財としての価値も高く、世界展開の可能性はある。 ・ 属人化解消の取組みは他社のモデルになり得る。データ取得の部分が解決すると、他社へのコンサルティングビジネス化も可能。 ・ AI活用に向けたデータ蓄積を積極的に進めていただきたい。
2	八洲建設株式会社	・ データ検索時に数値や文字でなく画像ベースで情報提供できると効率化できる。 ・ 外部専門家との適宜相談を継続しつつ、業務フローを最適化した上で、KPIを設定した方がより効果が得やすい。 ・ 必要データ抽出シートとしてまとめたことが素晴らしい。
3	藤塗装工業株式会社	・ DX推進チームは社長直轄の位置づけにすることで影響力を高めることが出来る。 ・ RPAと既存システム（販売大臣）の連携において、システムのバージョンアップに伴う追加工数が発生する点に注意。
4	三信建材工業株式会社	・ 防水コンシェルジュは独自性があり、商標登録を行いサブスクリプションモデルで他社に展開することで、収益化の可能性はある。 ・ 文字起こしをしデータ化をすると、AI活用の可能性があるため、そこを見据えた取組みにすることが重要。
5	平野鉄工株式会社	・ 金属コーディネーターやシステム名称は商標の早期取得を検討すべき。 ・ AIに全てを委ねず、最終判断は人が行う方式が今後の付加価値となる。 ・ システム共同開発時には権利・知財の明確化が重要。

2－（３）成果報告会の開催

本事業の成果を発表し、愛知県内企業に横展開することを目的に、以下の通り、2026年2月25日（水）成果報告会を実施した。なお、「デジタル技術導入モデル実証事業」との同時開催とした。

チラシ

モデル実証&計画策定で見えた
愛知県内企業のDX最前線

経営課題を現場と共に
デジタルで突破する!

「自社の経営課題を解決するために、デジタル技術はどう活用すべきか?」「計画をどう立てればよいのか?」専門家と共にDXに取り組んだ企業の『成果』と、そこに至るまでの『プロセス』をご報告します。現場におけるデジタルツール導入事例や、実効性の高いDX計画策定のポイントなど、明日から使えるヒントが満載です。

DAY1

2026年2月25日(水) 13:30~16:35 (13:00開場)

会場 愛知県産業労働センター(ウィンクあいち) 18階セミナールーム (名古屋市中村区名駅4-4-38) 参加費 無料 定員 事前申込制 会場:60名 オンライン:100名

13:30~ 現場起点のデジタル実装と業務改善の成果 デジタル技術導入モデル実証事業

- ・本事業の概要説明
- ・参加企業による成果発表
- ①船橋株式会社:作業日報の登録・管理業務の効率化
【導入ツール:Othello Connect(CMA株式会社)】
- ②野場電工株式会社:生成AIを活用した業務改善および情報探索性向上
【導入ツール:POPstation(株式会社朝日広告社)】
- ・講評

14:50~ 専門知見に基づくDX事業計画の策定と検証 DX計画策定支援事業

- ・本事業の概要説明
- ・参加企業による成果発表
- ①アイサンテクノロジー株式会社:デジタル技術で測量業界の効率化を加速する
- ②平野鉄工株式会社 :見取り作成プロセスの圧倒的な短縮化へ
- ・トークセッション

16:20~ 来年度の愛知県の施策

- ・2026年度実施予定のデジタル化・DX支援施策をいち早くご紹介

終了後、会場にて交流会を実施します。(30分程度・参加自由)

愛知県 DX 愛知県産業労働センター 日本アイ・ピー・エム株式会社 【お問い合わせ】 日本アイ・ピー・エム株式会社
DX推進コンソーシアム Mail: Aichi-dxplan2025@ibm.com

2－（3）成果報告会の開催

申し込み状況は以下のとおり。

申込人数

方法	人数
現地参加	39名
オンライン参加	91名
合計	130名



参加人数

方法	人数
現地参加	34名
オンライン参加	87名
合計	121名

2－（3）成果報告会の開催

当日の次第は以下の通り。当日の資料は別添のとおり。

DX Days2026 DAY1	
モデル実証&計画策定で見えた愛知県内企業のDX 最前線 「経営課題を現場と共にデジタルで突破する！」 次第	
日時	令和8年2月25日（水） 13：30～16：35 ※終了後、会場にて交流会を実施します。（30分程度・参加自由）
場所	愛知県産業労働センター 18階セミナールーム／オンライン
1. 開会挨拶	
愛知県産業振興課デジタル産業グループ	
2. 現場起点のデジタル実装と業務改善の成果（75分）	
● 本事業の概要説明	
日本アイ・ピー・エム(株) 小川泰宏 氏	
● 作業日報の登録・管理業務の効率化	
➢ 導入ツール：Othello Connect	
船橋(株) 舟橋 昌樹 氏	
CMA(株) 鷺見 哲雄 氏	
● 生成 AI を活用した業務改善および情報探索性向上	
➢ 導入ツール：POPstation	
野場電工(株) 大内 公宏 氏	
(株)朝日広告社 ツジ ヤスヒロ 氏	
● 講評	
日本アイ・ピー・エム(株) 小川 泰宏 氏	
3. 専門知見に基づくDX事業計画の策定と検証（80分）	
● 本事業の概要説明	
日本アイ・ピー・エム(株) 小山 弘二 氏	
● デジタル技術で測量業界の効率化を加速する	
アイサンテクノロジー(株) 渡邊 智樹 氏	
● 見積り作成プロセスの圧倒的な短縮化へ	
平野鉄工(株) 平野 真也 氏	
● トークセッション	
司会進行 日本アイ・ピー・エム(株) 佐藤 潤 氏	
平野鉄工(株) 平野 真也 氏	
アイサンテクノロジー(株) 今泉 悦子 氏	
4. 来年度の愛知県の施策（15分）	
愛知県産業振興課デジタル産業グループ	
5. 閉会	
こちらのQRコードより アンケートのご回答をお願いいたします	
	

2－（3）成果報告会の開催

「専門知見に基づくDX事業計画の策定と検証」と題し、日本アイ・ビー・エム株式会社から事業概要、事業参加企業から作成したDX事業計画、そして愛知県より来年度の施策についても説明を実施した。

- ・ デジタル技術で測量業界の効率化を加速する。 登壇者：アイサンテクノロジー株式会社
- ・ 見積り作成プロセスの圧倒的な短縮化へ。 登壇者：平野鉄工株式会社
- ・ トークセッション（アイサンテクノロジー株式会社、平野鉄工株式会社、司会：日本アイ・ビー・エム株式会社）

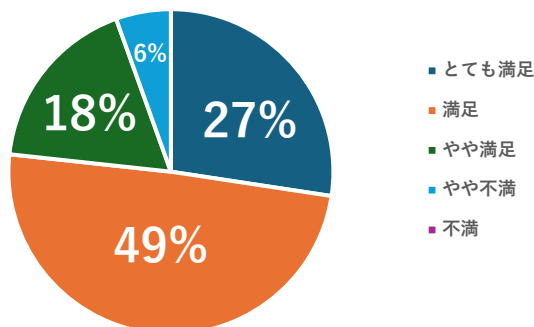


2 - 4.成果報告会の開催

成果報告会后にアンケートを実施。結果は以下の通り。登壇企業の成果報告、及びトークセッションにおいても約9割の方から満足との評価をいただいた。企業からのコメントは以下の通り。

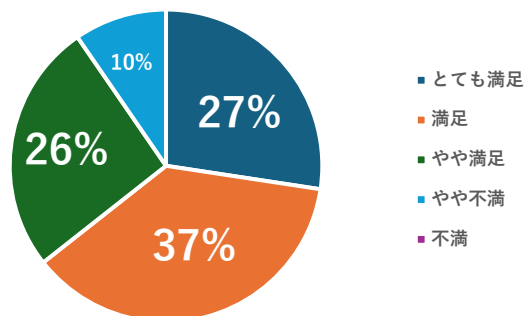
「3.専門知見に基づくDX事業計画の策定と検証」

登壇企業の成果報告への満足度



「3.専門知見に基づくDX事業計画の策定と検証」

トークセッション満足度



- この度はとても勉強になる機会をいただきありがとうございました。特に後半のパネルディスカッションは生の声が聞ける大変貴重な時間となりました。
- 県の施策の詳細や、実際の伴走の状況がよく分かりました。大変参考になりました。
- 企業側の発表で、それはそれでいいのですが、サービス利用者側はどう使っていいのか、IBMさんや支援者との関係をもう少し泥臭く話をしてほしかった。
- 業種は異なりますが、進め方も参考になりました。

2 - 4.成果報告会の開催

成果報告会後のアンケート結果を踏まえ、成果報告会の実施を通じて得られた成果と今後の課題について、以下に記す。

成果報告会における成果

- 具体的な取組事例の共有により、業種を超えてデジタル化・DXへの意欲向上に繋がった。
- 発表企業にとって、自社の取組を整理する有益な機会となった。

成果報告会における今後の課題

- 成功事例だけでなく、支援が十分な成果に繋がらなかった事例や、参加企業が直面した課題についての共有も期待される。
- 支援者との関係構築過程や、伴走支援の実態について、さらに具体的な情報提供が期待される。

3.総括

(1) 今年度の成果

(ア)事業計画書作成の検証

(イ)個別支援・WGプログラムの検証

(ウ)実施結果の総括

(エ)事業説明会・WGのアンケートの結果

3－（１）－（ア）事業計画書作成の検証

本事業を通じて作成された各社の事業計画書に関して、今年度の成果を以下に記す。概ね想定通りの成果を出すことができた。

高い満足度と実行意欲の醸成

WG1・WG2ともに最終回のアンケートの満足度としては、約 9 割が満足に達し、全9社が「AI見積り」や「測量業界の効率化」など、自社の強みを活かした具体的なDX計画の策定を完遂した。専門家のアドバイスにより、自社のみでは到達し得なかった高い実効性を持つ計画策定に至った。

経営判断に資する定性的価値の提供

WGのアンケートでは、DX計画が単なるIT導入にとどまらず、会社の成長を定量・定性の両面から把握する「経営の意思決定における大きな財産」になったなどとの評価を得ている。計画策定プロセスを通じて、参加した経営層がDXを自社の成長戦略として再定義できた点は大きな成果と言える。

異業種ネットワークによる多角的視点の獲得

「異業種ならではの意外な視点からの提案」や「他社の熱意が刺激になった」といった声が多く、単独支援では得られないシナジーが生まれている。狭い業界内では得にくい他業種の成功事例や課題を共有することで、自社の計画をより客観的にブラッシュアップすることができた。

3－（１）－（イ）個別支援・WGプログラムの検証

第１回から第６回に分けて実施した個別支援・WGプログラムの実施内容、各WGのアンケート結果を踏まえ、プログラム実施過程で得られた成果、今後の改善点について、以下に記す。

専門家による一気通貫の伴走支援（成果）

「新規事業」、「先端技術」、「知的財産」、「事業性評価」の４つの観点から、経験豊富な専門家が初期検討から最終発表まで一貫してサポートしたことが、計画の質を高めた。特に事業性に関するアドバイスは、将来の競争力を担保する上で非常に有効だった。

個別支援とWGのハイブリッド形式（成果）

自社の課題に深く踏み込む「個別支援」と、他社との議論で視野を広げる「WG」を交互に配置した構成は、計画の具体化と肉付けに極めて効果的だった。各社の進捗に合わせた追加の個別支援や現地訪問も、脱落者を出さずに完走できた要因の一つだったと推測している。

WG運営における時間配分の最適化（改善点）

初期のWGにおいて「時間がやや短い」との意見があり、ディスカッション時間を十分に確保するためのタイムマネジメントに改善の余地があった。次年度はワークの比重や時間枠の再設計により、企業間の相互研鑽をさらに促進する運営が必要だと考えられる。

支援範囲の明確化と期待値調整（改善点）

一部の企業から「より具体的なソリューションの比較提案」を期待する声があり、本事業の範囲内では十分に応えきれないケースがあった。開始時に支援可能なロードマップと範囲をより詳細に可視化し、継続的に参加企業との認識を一致させることが重要だと再認識された。

3－（１）－（ウ）実施結果の総括

本事業での実施結果総括を以下に記す。

本事業全体を通した成果

県内の中小企業9社が、それぞれの経営課題に直結した「DX事業計画書」を高い精度で策定し、組織変革の第一歩を踏み出した。また、成果報告会には現地・オンライン合わせて121名が参加し、満足度が約9割という高い関心を集め、県内全域への波及効果を生み出すことに成功した。

本事業全体を通した課題、次年度に向けた方向性

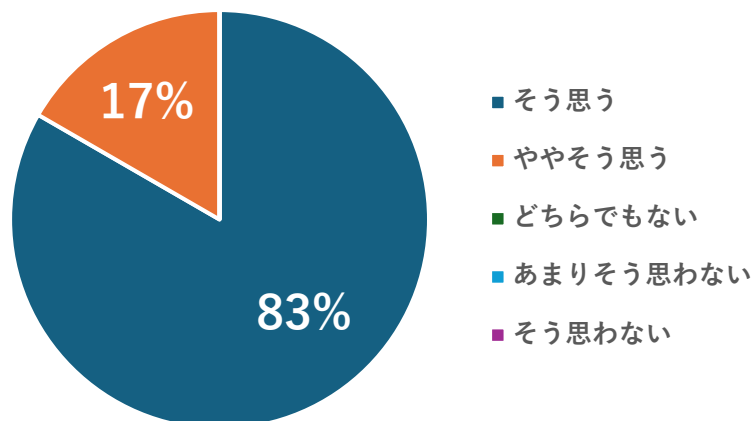
策定した計画を形骸化させないよう、今後は「実装フェーズ」での技術支援や公的支援の活用をさらに強化する必要がある。次年度は、全体のスケジュールや支援内容の透明性を高めるとともに、企業の進捗状況に合わせたより柔軟で泥臭い伴走支援体制を構築し、さらなる成功事例の創出を目指すことが求められる。

3－（１）－（エ）事業説明会・WGのアンケートの結果

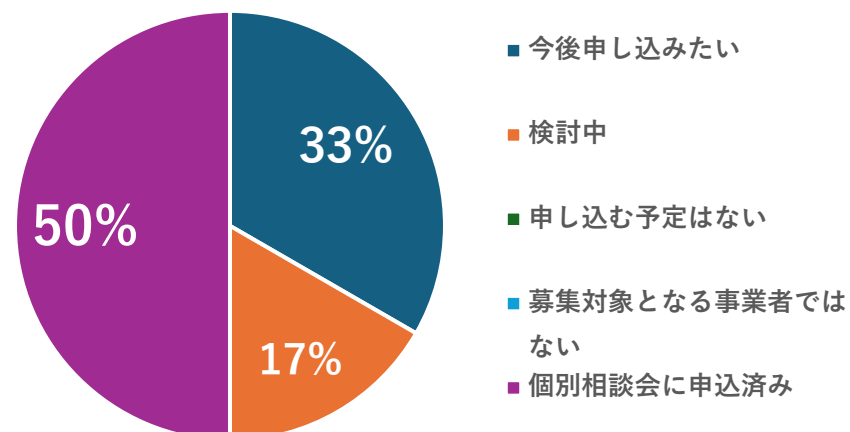
事業説明会終了後にアンケートを実施した。結果は「説明会の理解度」はそう思うが83%、「本事業への参加意向」では、今後申し込みたい、検討中が50%と一定の評価を得た。

※アンケート項目は別添のとおり

本日の説明会で本事業の内容、
主旨はご理解いただけましたか



現時点における
本事業への参加意向を教えてください

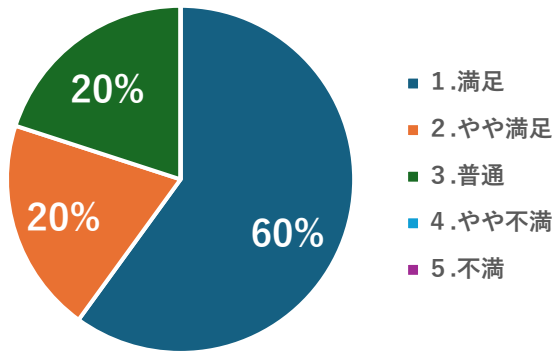


3－（１）－（エ）事業説明会・WGのアンケートの結果

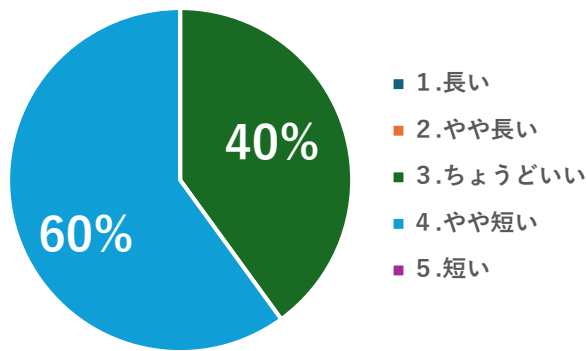
WG1 第2回WG活動後にアンケートを実施。結果は以下の通り。

満足度は、「満足」「やや満足」で80%と評価いただいた。ただ、時間は「やや短い」が60%と、WG設計に改善点があることが分かった。企業からのコメントは以下の通り。

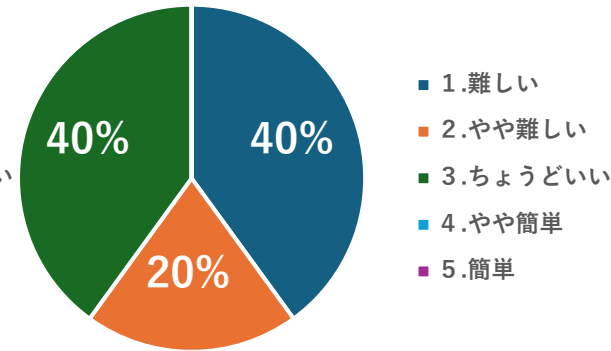
①ワーキンググループの満足度



②ワーキンググループの時間



③ワーキンググループの難易度



- ・ 他社の方の思いや、やりたいこと、弊社の案に対してのご意見、また専門家の方の意見などを伺うことができ、とても貴重な時間を過ごせたと感じております。
- ・ 自社について話すことで、気が付くこともありますし、他社の方が意見を聞いて取り入れて行かれるのを拝見させていただいて、学ぶところも多々ありました。
- ・ 可能であれば、同じくらいの時間をかけて他の会社様のお話も聞いて、ディスカッションの時間をいただきたかったなというところです。

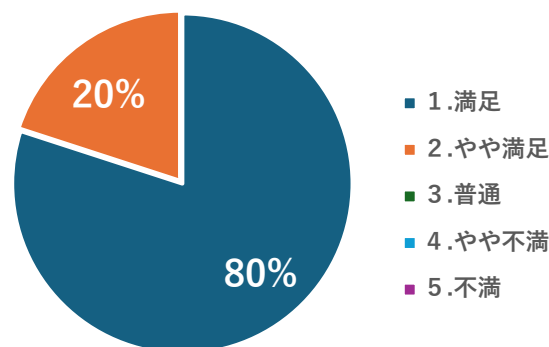
3－（１）－（エ）事業説明会・WGのアンケートの結果

WG2 第2回WG活動後にアンケートを実施。結果は以下の通り。

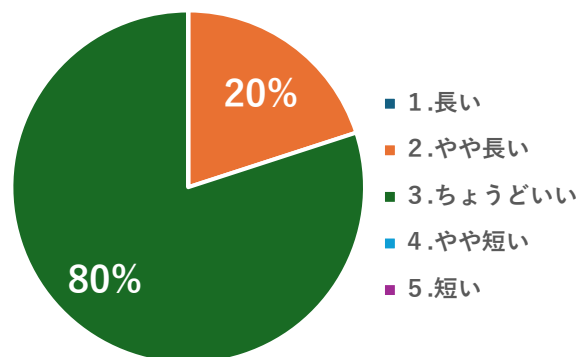
満足度は、「満足」「やや満足」で100%、時間と難易度共に「ちょうどいい」が80%と高い評価いただいた。

企業からのコメントは以下の通り。

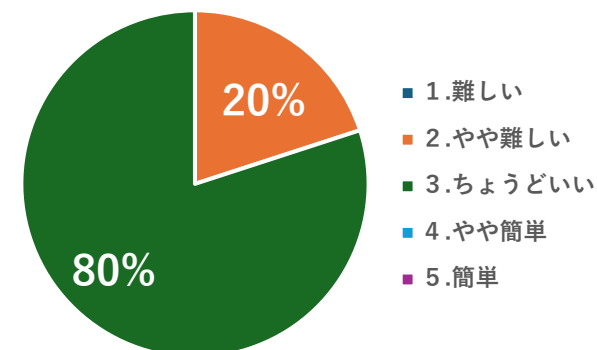
①ワーキンググループの満足度



②ワーキンググループの時間



③ワーキンググループの難易度



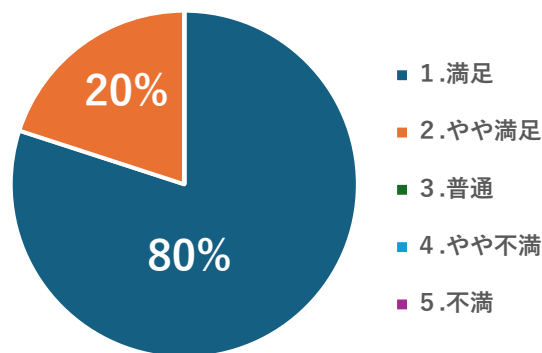
- ・初めは異業種同志でどうなるか不安でしたが、異業種ならではの意外な方向からの意見、提案などをいただく事ができ、とても為になりました。
- ・意欲的にDXを推進していこうと着手している企業の方との交流が刺激になります。
- ・本事業終了までの全体スケジュールを可視化し、どのように進捗していくのか、どのような支援を受けられるのかが分かれると参加企業も進めやすいと思います。

3－（１）－（エ）事業説明会・WGのアンケートの結果

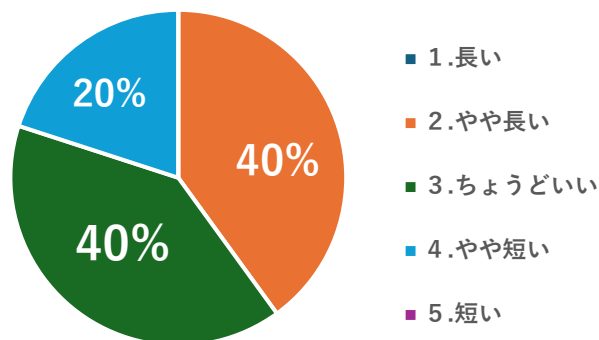
WG1 第４回WG活動後にアンケートを実施。結果は以下の通り。満足度は、「満足」「やや満足」で100%、難易度は「ちょうどいい」が60%と一定の評価をいただいた。

企業からのコメントは以下の通り。

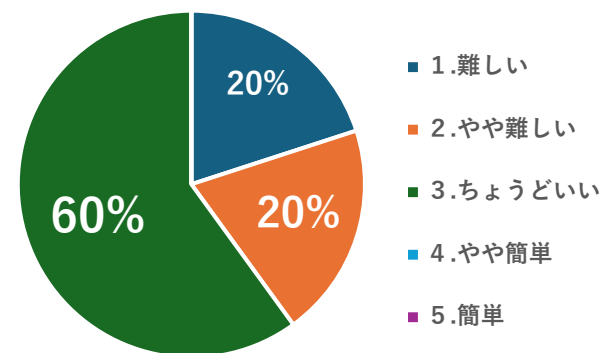
①ワーキンググループの満足度



②ワーキンググループの時間



③ワーキンググループの難易度



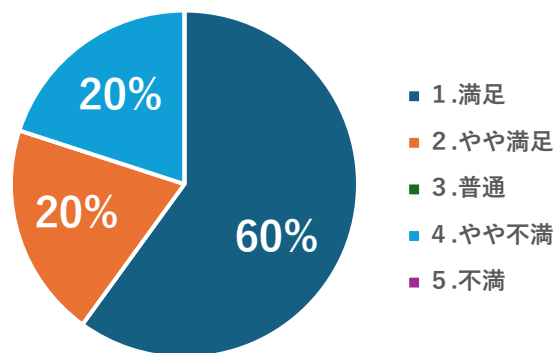
- こういった取り組みが初めてですのでとても勉強になっています。
- やりたいことが膨れてきて、どうまとめれば良いのかというのを学ばせていただいています。
- アドバイスを頂き今後の課題が整理でき良かった。従業員の協力が必要なので、従業員にとってのゴールの聞取りもしていこうと思いました。
- 新規サービスの会社様がもう少しいらっしゃる良かったかなと思います。

3－（１）－（エ）事業説明会・WGのアンケートの結果

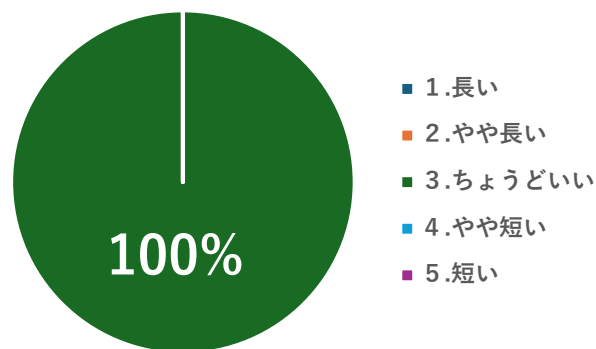
WG2 第4回WG活動後にアンケートを実施。結果は以下の通り。満足度は、「満足」「やや満足」で80%、時間は「ちょうどいい」が100%と高い評価をいただいた。

企業からのコメントは以下の通り。

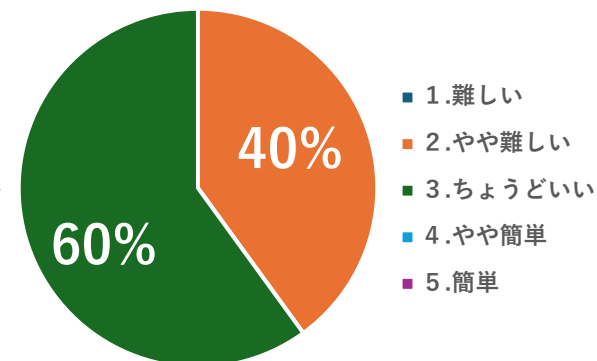
①ワーキンググループの満足度



②ワーキンググループの時間



③ワーキンググループの難易度

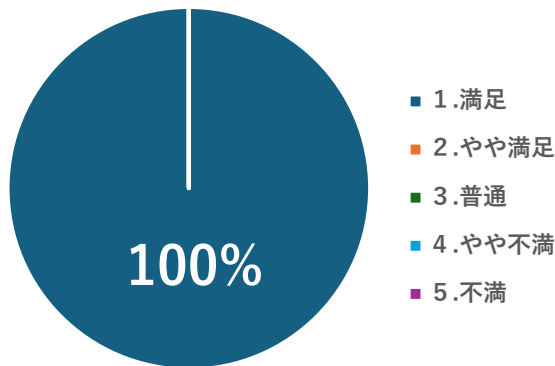


- ・ 他社の方からの視点、IBMメンバーの方からの視点を加えながら、自社の取り組みをブラッシュアップできる機会は、気づきが多く、大変ありがたいです。他社の案件のアイデア出しも、自分自身の新たな視点につながり、発想も豊かにできました。
- ・ 他社様の事例集取りまとめていただきありがとうございます。
- ・ やりたいことの実現手段について具体的なご提案（複数比較）をいただけると期待していましたが、本事業の中では叶わないとのことでした。

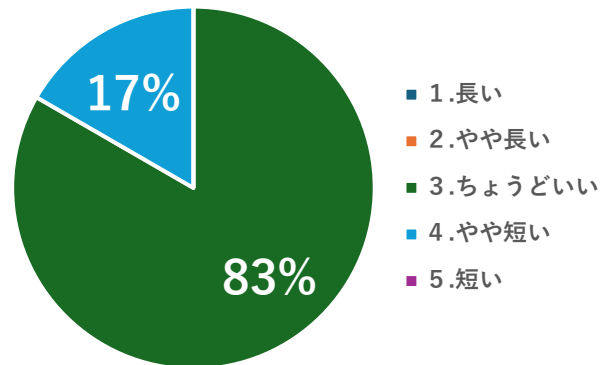
3－（１）－（エ）事業説明会・WGのアンケートの結果

WG1 第6回WG活動後にアンケートを実施。結果は以下の通り。満足度は「満足」が100%、時間は「ちょうどいい」が83%と高い評価をいただいた。企業からのコメントは以下の通り。

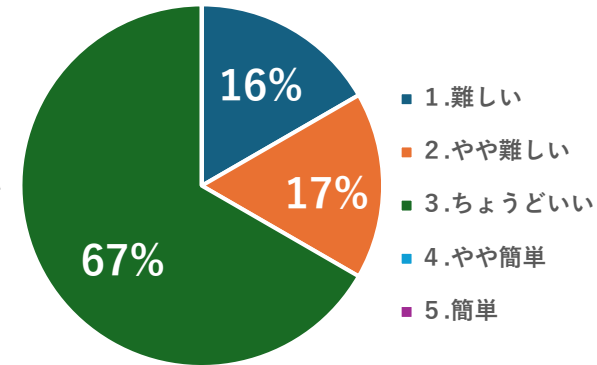
①ワーキンググループの満足度



②ワーキンググループの時間



③ワーキンググループの難易度



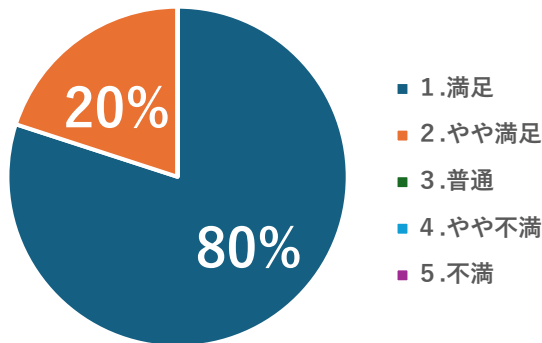
- ・ DXに向けての会社の経営計画の見直しが必要と感じ、並行してご指導をいただきました。ありがとうございます。DX化により会社の成長を把握する視点で定性的な判断基準と定量的に把握する視点をいただいたのは、経営の意思決定をしていく上で大きな財産であります。
- ・ 参加企業の皆さんの発表を聞かせていただき、たくさんの気づきがありました。ありがとうございました。
- ・ 狭い業界にいますので他業種の方とお話する機会はほぼなく、そういう点でも貴重な機会でした。

3－（１）－（エ）事業説明会・WGのアンケートの結果

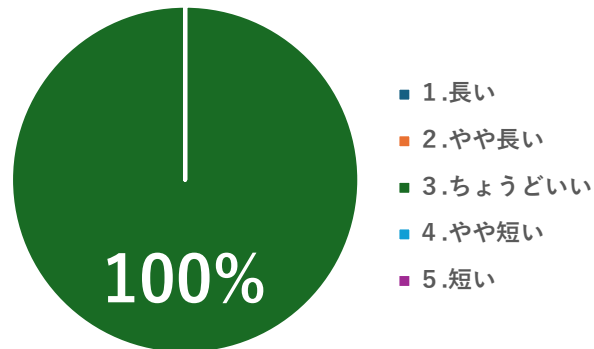
WG2 第6回WG活動後にアンケートを実施。結果は以下の通り。満足度は「満足」「やや満足」が100%、時間は「ちょうどいい」が100%と高い評価をいただいた。

企業からのコメントは以下の通り。

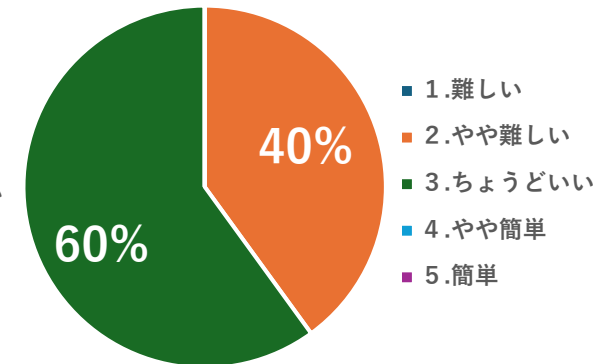
①ワーキンググループの満足度



②ワーキンググループの時間



③ワーキンググループの難易度



- 約半年に渡る支援事業に参加させて頂くことで、DX計画の策定までかたちにすることができありがとうございました。それぞれの分野の専門家の方々からアドバイスを頂きながら、DXを進めていくための要点や、考える視点をもらえたことと、他社と合同でワーキングをする中での気づきやひらめきなどが、自社だけではなしえない計画へと結実していきました。
- 全6回のWGを通して、毎回新しい気づきがあり、DXの可能性を改めて実感する時間でした。ご一緒した皆さんのおかげで、最後まで走り切れました。これからの実装フェーズに向けて取り組んでまいります。

